御　礼　の　言　葉

令和八年度松戸市戦没者追悼式が、戦没者遺族並びにご来賓の皆様のご臨席（ごりんせき）を賜り、厳粛に挙行されましたことに、遺族を代表して心より御礼申し上げます。

終戦から八十一年という歳月が流れました。戦後、私たちは時代の変遷の中で幾多（いくた）の困難を乗り越え、一人ひとりのたゆまぬ努力によって、平和で豊かな暮らしを築いてまいりました。

祖国の未来を案じ、家族の安泰を信じながら戦場に斃（たおれた）れた方々、また、遠い異郷（いきょう）の地で病や飢えに苦しみ、志半ばで命を落とされた方々の御霊（みたま）のご無念を思うとき、遺族である私たちは、今なお深い悲しみと痛みに包まれます。

命の儚（はかなさ）さを身をもって知る遺族として、戦争の悲惨さや愚かさ、そして平和の尊さを、亡き家族から受け継いだ記憶とともに胸に刻み、その思いを決して風化させることなく、次の世代へ引き継いでいくことが、今を生きる私たちの願いであり、決意でございます。

本日は、「松戸市平和大使」の皆さんから、平和への思いを語っていただきました。将来を担う中学生の皆さんにご参列いただいたことは、私たちにとって大きな希望であり、大変心強く感じております。

平和大使の皆さんには、これまでの学びや本日感じられた思いを、ぜひご家族やご友人へ伝えていただき、私たちの平和への願いをしっかりと受け継いでいただきたいと願っております。

結びに、改めまして、先の大戦で尊い命を失われたすべての御霊（みたま）に対し、衷心（ちゅうしん）より哀悼の誠を捧げますとともに、戦没者の御霊（みたま）の安寧（あんねい）と、ご参列の皆様のご健勝を心より祈念申し上げ、お礼の言葉といたします。

令和八年九月二十六日

松戸市遺族会　会長　石井　猛